

子どもの創造性を引き出す即興ワークショップ
ー音で対話しようー

山梨学院ワークショップ
2022/9/2
木下和彦(宮城教育大学)
kino-kz@miyakyo-u.ac.jp

1

今日のテーマ

子どもの表現を創造性の観点から捉える

即興的な音楽表現による創造性を育む保育・教育のあり方を探る

創造性を引き出すことのできる保育者の養成へ向けて

2

他者につながる音楽遊び

- **手拍子まわし**
 - 輪になって手拍子を隣の人に回していく、すぐできる音楽遊び。速く回したり、大きさを変えたりして遊ぶこともできる。名前にリズムを付けて回すこともできる。
- **まねっこ**
 - 数拍（2・4拍ぐらい）のリズムパターンをつくり、一人が演奏したものを他のみんなで模倣して、グループの中で回していく。
- **パターンを重ねる**
 - 各自つくったパターンを反復させ、一人ずつ重ねていく。

他の人と一緒のリズムでも大丈夫

限られた素材で、他者と関わる音楽をつくることできる

3

子どもの表現の即興性・関わり

- **子どもは即興的に「つくりうた」を歌っている**
 - ことばの抑揚やリズムが音楽的な要素となって、即興的にうたわれる
- **子どもは「楽器」に出会うとき「モノ」として出会う**
 - 「正式な奏法」を知る前に、「さまざまな行為の可能性を持つモノ」

アフォーダンス (ギブソン)

例：野村誠「お湯の音楽会」「瓦の音楽」

教員・保育者が子どもの行為をどう捉えるかで、子どもの表現の自発性や創造性が方向づけられる

4

「聴く」ことによる音楽教育 ーサウンドエデュケーションー

- **サウンド・エデュケーション (マリー・シェーファー)**
- →サウンドスケープ(音風景)に対し、感性を研ぎ澄ませて「聴く」ことのできる身体を取り戻し、社会・生活における音環境の抜本的な変革を目指す。
- (アクティビティ例)
- ・紙を静かに回す
- ・静かに立って座る
- ・静かに座り聞こえる音を紙に書き出す
- ・目をつぶって誰かが歩き、足音をたよりに動きを遊ぶ
- ・音日記をつける
- ・紙から出せる音をたくさん探す

5

騒音と音環境

- 私達を取り巻く音環境には、理想的な「騒音」のレベルがあります。
- 例、幼稚園・学校について「学校環境衛生の基準」では、中央値が50-55dB(デジベル)以下、上端値が65dB以下が望ましい。
- →実際には、(私立幼稚園の保育室)一斉活動が行われない状態で70-80dB、音楽活動や走り回るなど活発な遊びで90-100dB
- ※80dB=交通量の多い道路、90-100dBで電車の高架下の騒音。
- 85dB以上の音を長時間聴いていると、内耳の蝸牛管が永久的な損傷をきたす。
- 子どもが賑やかに活動している幼稚園や小学校も、
- 音環境という観点では、必ずしも望ましくない環境かもしれない。



6

パターンを重ねて音楽をつくる

- 「音楽を形づくっている要素」を手がかりに、表現を工夫できる
- 「はじめ」「なか」「おわり」を意識してつくと形式感が出る
- 例.はじめ「だんだん入る」「静かに入る」
- なか「繰り返す」「パートごとに入ったり抜けたり」
- 長さは決まりはない、まとまりのある音楽を作ることを意識する

7

小中接続の観点： 共通事項「音楽を形づくっている要素」

(小学校)

- ア 音楽を特徴付けている要素
- 音色、リズム、速度、旋律、音の重なり、和音の響き、音階、
- 調、拍、フレーズなど
- イ 音楽の仕組み
- 反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横の関係など

- ※参考 (中学校)
- 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成

これらの要素を手がかりに、歌唱・器楽・創作・鑑賞活動を行います

8

理論と即興的な音楽表現

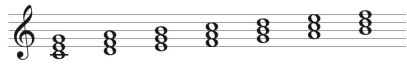
- 世界中の音楽文化はそれぞれに理論を有している
- 今日の我々を取り巻く音楽の大半は、近代以降の西洋音楽理論に根ざしている

和音の機能

- Tonic トニック (I VI)
- SubDominant サブドミナント (II IV)
- Dominant ドミナント (V) I II III IV V VI VII

3カデンツ

- T-D-T
- T-S-T
- T-S-D-T



ただし、この西洋音楽理論自体は確立されてから400年程度しか立っていない

- 日本に西洋音楽理論が本格的に入ってきたのは明治以降(約150年)
- →我々は限られた時代の限られた理論に基づく音楽を経験し続けている。保育における「子どもの歌」も。
- 一方、理論は「つくる」活動の手がかりにもできる

9

音階を活かして遊ぶ

- (メジャー) ペンタトニック (五音音階)



中心音
世界中に広がるペンタトニック

- 遠き山に日は落ちて ・カントリーロード
- 香水 (瑛人)
- パブリカ (米津玄師)
- Ado (新時代)
- あいみょん (裸の心)
- (Sam Smith)
- Shape of You (Ed Sheeran)
- アリラン(韓国)、茉莉花(中国)、

制約の中での自由

「ラ」を中心音にするとマイナー・ペンタトニックになる

10

即興による音楽表現の形態例

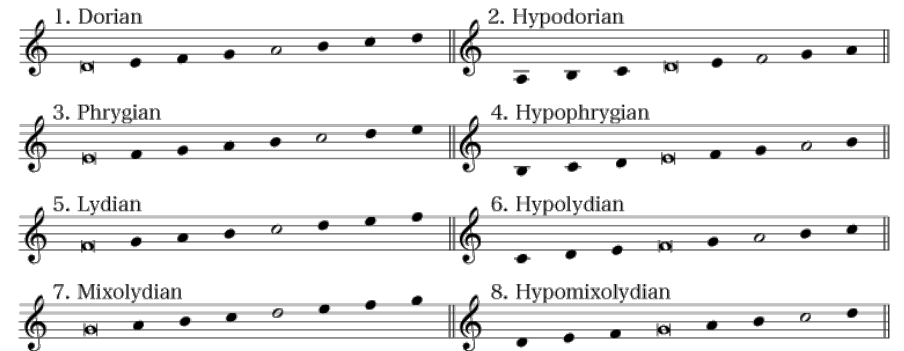
即興○… 副旋律、打楽器、、、

- 即興① メロディー (ある音階や旋法に基づいて)
- 即興② ハーモニー (ある音階や旋法に基づいて)
- ドローン (反復する、支えるパート)

反復のドローンや音階が即興のための「足場」となる
「足場かけ」…活動のための年長者、熟達者の支援

11

- 旋法 (モード) で作る



終始音 (倍全音符で表記) と支配音 (全音符で表記)

奇数は正格旋法、偶数は変格旋法

1950年代以降ジャズでもモード(旋法)が使われる 例:Miles Davis 「Kind of Blue」

12

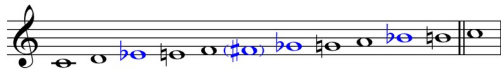
ブルースで遊ぶ

- 一般に12小節で決まったコードでつくられた音楽形式
- 19c後半にアフリカ系アメリカ人によって、黒人霊歌、フィールドハラー、ワークソングから発展したと言われる

ブルース進行の例

| - IV - | - |
 IV - IV - | - |
 V - IV - | - |
 (他にも進行はあります)

ブルーノートを入れた音階にするとJAZZ風になる!



ブルース進行の参考曲
 Mady Waters/Got My Mojo Working
 Charlie Parker/ Now's the time

13

創造性?

子どもの思いや多様な表現を受け入れる場になっているか?

- チクセントミハイの「創造性のシステムモデル説」
- 創造性は、**個人Individual**、**領域Domain**、**場Field**が関わり合い、交差するところで観察できる

音楽でいえば、領域は様式など、場は業界(クラシック・ポップス等)、教室、幼稚園などを指す

- 創造が起こるためには、法則や実践が領域から個人へと伝達され、個人が新しい変種を領域の中に作り、場が変種を領域の中に入れるかを選択しなくてはならない
- (チクセントミハイ・M,2016)

ソーヤーの8段階説

- 創造的なプロセスは直線ではなく即興的でさまようようにジグザグである
- 問題認識(可能性に気づく) → 直接情報収集(対象を直接試す) → 間接情報収集(他の情報も知って試す) → 孵化(アイデアが温められる) → アイデア創出 → 他の知識との組み合わせ → アイデア収束(形になる) → アイデア伝播(表現される)
- (ソーヤ・K,2022)

子どもが創造的になれる間暇、隙間、余白があるか? 大人が方向付けていないか?

14

教育と創造性

• AIが音楽をつくり、スマホやiPadで他言語を翻訳でき、子どもが夏休みの問題をアプリで解ける時代

• 教育で育むべきは「答えを出す」能力よりも

• 「問いを生み出す」・「探求する」・「形にする」能力

創造性

単につくれば良いだけでも、つくる能力を育めばよいだけでもない

これって何だろう? こうしたらどうなるだろう? → 試してみよう!
が子どもの生きる文脈から生まれることが大切

そのために、保育者・教師が既存の文化の価値基準に捉われず子どもの表現を受け入れること、多様な表現が生まれる環境をつくることが大切

15

参考文献

- 子どもの音楽表現に関して
- 小西行郎ほか(2016)『乳幼児の音楽表現』中央法規出版
- 吉永早苗(2016)『子どもの音感受の世界』萌文書林
- 音楽表現の実践に関して
- シェーファー・M、今田匡彦(2009)『音さがしの本』春秋社
- 石上則子(2016)『音楽づくり・創作の授業デザイン あすの授業に生かせるアイデアと授業展開』教育芸術社
- 梅英里・木永昇一・木下和彦(2021)『ふしぎだね。きれいだね。たのしいね。体験から学ぶ領域「環境」「表現」に関する専門的事項』学校図書
- 創造性に関して
- チクセントミハイ・M(2016)『クリエイティビティ・フロー体験と創造性の心理学』世界思想社
- ソーヤー・K(2022)『ジグザクに考えよう』ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス)

16